

JANIS
手術部位感染(SSI)部門
提出データの概要と作成の手引き
(Ver.2.4)
-バージョン情報：V300 用-

2019年7月

目次

1	はじめに	4
2	2012 年以降の変更点	5
2.1	データフォーマット：分子データと分母データの統合	5
2.2	必須項目の削減	5
2.3	バージョン情報とコードの変更	6
3	全体フォーマット仕様	7
3.1	データの種類	7
3.2	各項目間の区切り文字	8
3.3	ファイルの形式	8
4	各項目の詳細と注意点	9
	● 項目 No.1【バージョン情報】(必須)	9
	● 項目 No.2【医療機関】(必須)	9
	● 項目 No.3【手術年月日】(必須)	9
	● 項目 No.4【患者 ID】(必須)	10
	● 項目 No.5【年齢】(必須)	10
	● 項目 No.6【性別】(必須)	10
	● 項目 No.7【手術手技】(必須)	10
	● 項目 No.8【手術時間(分)】(必須)	10
	● 項目 No.9【創分類】(必須)	11
	● 項目 No.10【ASA】(必須)	11
	● 項目 No.11【緊急】(必須)	11
	● 項目 No.12【埋入物】(必須)	11
	● 項目 No.13【内視鏡】(必須)	11
	● 項目 No.14【人工肛門造設】(特定手術(COLO、SB、REC)のときのみ必須)	11
	● 項目 No.15【SSI】(必須)	12
	● 項目 No.16【感染診断年月日】(【SSI】が[1]の場合のみ必須)	12
	● 項目 No.17【感染特定部位】(【SSI】が[1]の場合のみ必須)	12
	● 項目 No.18【検体】(【SSI】が[1]で、培養検査を行った場合のみ必須)	12
	● 項目 No.19【病原体 1】(【SSI】が[1]で、該当データがある場合は必須)	13
	● 項目 No.20【病原体 2】(【SSI】が[1]で、該当データがある場合は必須)	13
	● 項目 No.21【病原体 3】(【SSI】が[1]で、該当データがある場合は必須)	13
	● 項目 No.22【病原体 4】(【SSI】が[1]で、該当データがある場合は必須)	13

●	項目 No.23【皮下膿瘍】 (【SSI】 が[1]の場合のみ任意で設定)	13
●	項目 No.24【縫合不全】 (【SSI】 が[1]の場合のみ任意で設定)	13
●	項目 No.25【遺残膿瘍】 (【SSI】 が[1]の場合のみ任意で設定)	14
5	提出データの修正.....	15
6	最後に.....	16

1 はじめに

JANIS 参加医療機関向けサイトで公開している「SSI 部門入力支援ソフト」では、簡単な操作で報告ファイルを作成することができます。

「SSI 入力支援ソフト」を使用せず、電子カルテ等の既存システムのデータを利用することによって、JANIS への報告ファイルを作成することも可能です。既存システム等からの報告ファイル作成では、データフォーマットに沿って報告ファイルを作成する必要があり、その手助けとして、本資料「JANIS 手術部位感染(SSI)部門 提出データの概要と作成の手引き」をご参照ください。

別資料として公開されている「SSI 部門データフォーマット」、各「コード表」、「判定基準」も併せてご参照ください。

2 2012 年以降の変更点

JANIS SSI 部門では、2012 年 1 月より手術手技コードを変更いたしました。それに伴いデータフォーマット、関連するコードも更新されました。主な変更点は下記になります。

2.1 データフォーマット：分子データと分母データの統合

これまで、報告データには 2 種類のデータ、分母データと分子データがあり、全ての手術症例について分母データが、SSI のあったものについては分子データが作成されてきました。分母データと分子データは独立したレコードとして作成され、【レコード区分】により区別していましたが、2012 年 1 月の新データフォーマットでは、1 手術 1 データ 1 レコードとなりました。

2.2 必須項目の削減

これまで必須項目として収集されていた全身麻酔、外傷、合併手術、日帰り、診断時期、転帰情報が削除されました。また、皮下膿瘍、縫合不全、遺残膿瘍の有無が任意項目となりました。

2.3 バージョン情報とコードの変更

	2011年12月31日以前に 実施された手術	2012年1月1日以降に 実施された手術
バージョン情報	V200	V300
手術手技コード	1.0	2.0 / 2.1
創分類コード	1.0	
ASAスコアコード	1.0	
感染特定部位コード	1.0	2.0
検体コード	1.0	1.1
	培養検査未実施の場合 「0（ゼロ）」を設定	培養検査未実施の場合は 空白とする
病原体コード	1.1	菌名コードVer4.0 / 5.0 / 5.1

3 全体フォーマット仕様

JANIS の SSI 部門用報告ファイルの全体的な仕様を説明します。

3.1 データの種類

SSI 部門の報告ファイルは、半期ごと（1月～6月、7月～12月）に生成し、JANIS へ提出しますが、報告ファイルは 6 カ月分ではなく、毎回、サーベイランス開始時～現在までのすべてのレコードが含まれます。

データの構成

- ・報告ファイル：データ提出時までには収集され、データフォーマットに沿って生成された SSI サーベイランス対象患者すべてのデータのことです。報告ファイルは、レコードによって構成されます。
- ・レコード：データフォーマットの項目に沿って生成された 1 患者分のデータを 1 レコードといいます。
- ・項目：データフォーマットで規定されたサーベイランスに必須または任意の情報です。
(患者 ID、手術手技、創分類、ASA スコア、SSI 判定など全 25 項目)

報告ファイル.txt
(任意のファイル名)



報告ファイル

ファイル(F)	編集(E)	書式(O)	表示(V)	ヘルプ(H)										
V300	00000	20140507	aaa	48	M	AAA	312	CC	ASA2	0				
V300	00000	20150105	sss	49	M	APPY	60	C	ASA1	0				
V300	00000	20150107	ggggg	20	M	APPY	36	CC	ASA1	0				
V300	00000	20150108	sss	49	M	APPY	45	C	ASA1	0				
V300	00000	20150202	eee	49	M	COLO	71	C	ASA1	1				
V300	00000	20150208	ccc	49	M	GAST-0	312	CC	ASA2	0				
V300	00000	20150302	bbb	40	F	APPY	124	C	ASA1	0				
V300	00000	20150401	qqqq	64	M	CARD	200	C	ASA1	0				
V300	00000	20150801	qqqq	65	M	CBGB	200	C	ASA1	0				
V300	00000	20150801	qqqq	65	M	TAA	200	C	ASA1	0				
V300	00000	20150809	ppppp	63	M	CEA	100	C	ASA1	0				
V300	00000	20151003	vvvvv	28	M	AMP	120	C	ASA1	0				
V300	00000	20151003	vvvv	29	M	AMP	120	C	ASA1	0				
V300	00000	20151012	llll	65	M	EUSI	120	CO	ASA1	1				
V300	00000	20170201	jijj	70	M	APPY	70	CC	ASA1	0				
V300	00000	20170520	vvv	70	M	GAST-0	128	C	ASA1	0				
V300	00000	20170615	jijj	70	M	CARD	360	C	ASA2	0				
V300	00000	20170621	llll	58	M	HER	240	C	ASA1	0				
V300	00000	20170704	dddd	76	M	AAA	240	C	ASA2	0				
V300	00000	20170714	hhhh	32	F	AVSD	124	C	ASA2	0				
V300	00000	20170801	www	48	M	APPY	60	C	ASA1	0				
V300	00000	20170803	pppp	43	F	BILI-0	120	C	ASA2	0				

3.2 各項目間の区切り文字

報告ファイルは複数のレコードによって構成されていますが、さらに各レコードは複数の項目によって構成されます。

項目間の区切り文字として『タブ文字』を使用します。また、各項目はデータの種類ごとに定められた順番で並べる必要があります。

JANIS システムでは、定められた順番で並んだ各項目をタブ文字ごとにひとつずつ読み取り、内容を確認しています。

3.3 ファイルの形式

Shift JIS コードを使用したテキスト形式でファイルを作成してください。

ファイル名に規定はありません。任意のファイル名で作成して下さい。

各データは改行で区切り、改行コードには Windows 標準である[CR+LF]を使用して下さい。

4 各項目の詳細と注意点

ここでは各項目の詳細な設定内容と注意点を説明します。

なお、すべての項目の内容と順番は、別表「SSI 部門データフォーマット」をご確認下さい。

各項目の設定内容は以下のとおりです。

各項目のところに記載している「項目 No.**」は項目の番号(順序)を示しています。

- 項目 No.1 【バージョン情報】 (必須)

こちらの項目には [V300]を設定します。

【バージョン情報】は入力項目に使用される各コード表のバージョンの組み合わせによって形成されるデータフォーマットの種類を判断するもので、今後、各コード表やフォーマットの仕様が更新される場合には、変更される場合がありますので、その際には JANIS ホームページの案内をご覧ください。

- 項目 No.2 【医療機関】 (必須)

JANIS 事務局より発給された医療機関コードを設定します。

(5桁の半角英数字)

- 項目 No.3 【手術年月日】 (必須)

手術日を[YYYYMMDD]の形式で設定します。半角英数字のみ。

例えば、2012年1月20日の場合は[20120120]を設定します。

- 項目 No.4【患者 ID】(必須)

患者を識別する ID を 15 文字以内で設定します。

使用できる文字は、半角英数字とハイフン“-”のみです。大文字と小文字を区別して認識します。

例)「ABC123」と「abc123」は異なる患者として認識します。

なお、個人が特定される可能性があるため院内で使用している ID やコードをそのまま設定することは避け、必ず新たに任意の患者 ID を割り振るようにしてください。ただし、JANIS 事務局からの問い合わせに備え、任意の患者 ID がどの患者であるかを医療機関で識別ができるようにデータを管理しておく必要があります。

- 項目 No.5【年齢】(必須)

患者の手術日現在の年齢を半角数字で設定します。

100 歳以上の値が設定されている場合、該当データは取り込みますが、[警告]が表示され確認を求めます。

- 項目 No.6【性別】(必須)

性別を下記の値で設定します。半角英字(大文字)のみ。

M : 男、F : 女

- 項目 No.7【手術手技】(必須)

行った手術を「手術手技コード」で設定します。

半角英字(大文字)とハイフン“-”のみ。

例 : AAA

- 項目 No.8【手術時間(分)】(必須)

手術を行った時間を「分」で設定します。半角数字のみ。

例えば手術時間が 2 時間 30 分の場合は[150]と設定します。

10 分未満、2880 分以上の値が設定されている場合、該当データは取り込みますが、[警告]が表示され確認を求めます。

- 項目 No.9【創分類】(必須)
手術創の汚染度を「創分類コード」で設定します。
半角英字(大文字)のみ。
例: CC
- 項目 No.10【ASA】(必須)
状態を「ASA コード」で設定します。
半角英数字(大文字)のみ。
例: ASA3
- 項目 No.11【緊急】(必須)
手術が行われた際の状況を、下記の値で設定します。半角数字のみ。
0: 待機/定時手術、1: 緊急手術
- 項目 No.12【埋入物】(必須)
埋入物を下記の値で設定します。半角数字のみ。
0: なし、1: あり
- 項目 No.13【内視鏡】(必須)
内視鏡の使用を下記の値で設定します。半角数字のみ。
0: 使用なし、1: 使用あり
- 項目 No.14【人工肛門造設】(特定手術(COLO、SB、REC)のときのみ必須)
人工肛門造設を下記の値で設定します。半角数字のみ。
0: 造設なし、1: 造設あり
手術が「COLO」「SB」「REC」の場合のみ設定してください。これらの手術でない場合に設定すると入力値は無効になります。

- 項目 No.15 【SSI】 (必須)

SSI の発生状況を下記の値で設定します。半角数字のみ。

0 : なし、1 : あり

ただし、下記の場合は[1](SSI あり)を設定するとエラーとなり、該当データは取り込まれません。

- ・手術日より数えて 31 日以降(*)の感染診断年月日が設定されていて、感染特定部位に表層切開創のコードが設定されている場合

- ・手術日より数えて 31 日以降(*)の感染診断年月日が設定されていて、【埋入物】に[0](なし) が設定されている場合

* 手術日当日を 0 日目と数えます。例えば手術日が 10/1 の場合、感染診断年月日に 11/1 以降の日付が設定されている場合が対象となります。

- 項目 No.16 【感染診断年月日】 (【SSI】 が[1]の場合のみ必須)

SSI が発生していた場合、感染の診断を行った日を[YYYYMMDD]の形式で設定します。半角数字のみ。

手術日以降の日付を設定してください。例えば 10/1 に手術を行った場合は 10/2 以降の日付を設定します。

- 項目 No.17 【感染特定部位】 (【SSI】 が[1]の場合のみ必須)

SSI が発生していた場合、感染を特定した部位を「感染部位コード」で設定します。半角英字 (大文字) のみ。

例 : SIP

- 項目 No.18 【検体】 (【SSI】 が[1]で、培養検査を行った場合のみ必須)

SSI が発生していた場合、培養検査を行った検体を「検体コード」で設定します。半角英字 (大文字) のみ。

培養検査未実施の場合は、空欄にしてください。

例 : B

- 項目 No.19【病原体 1】（【SSI】が[1]で、該当データがある場合は必須）
SSIが発生していた場合、分離した菌を「菌名コード（SSI 部門用）」で設定します。
半角数字のみ。
例：1301
培養検査未実施の場合、または菌が分離されなかった場合は空白にしてください。
- 項目 No.20【病原体 2】（【SSI】が[1]で、該当データがある場合は必須）
SSIが発生していた場合、病原体 1 に設定したコード以外の菌を「菌名コード（SSI 部門用）」で設定します。半角数字のみ。
ただし、項目 No.19「病原体 1」が入力されていること。
培養検査未実施の場合、または菌が分離されなかった場合は空白にしてください。
- 項目 No.21【病原体 3】（【SSI】が[1]で、該当データがある場合は必須）
SSIが発生していた場合、病原体 1～病原体 2 に設定したコード以外の菌を「菌名コード（SSI 部門用）」で設定します。半角数字のみ。
ただし、項目 No.19「病原体 1」～項目 No.20「病原体 2」が入力されていること。
培養検査未実施の場合、または菌が分離されなかった場合は空白にしてください。
- 項目 No.22【病原体 4】（【SSI】が[1]で、該当データがある場合は必須）
SSIが発生していた場合、病原体 1～病原体 3 に設定したコード以外の菌を「菌名コード（SSI 部門用）」で設定します。半角数字のみ。
ただし、項目 No.19「病原体 1」～項目 No.21「病原体 3」が入力されていること。
培養検査未実施の場合、または菌が分離されなかった場合は空白にしてください。
- 項目 No.23【皮下膿瘍】（【SSI】が[1]の場合のみ任意で設定）
SSIが発生していた場合、皮下膿瘍の有無を下記の値で設定します。半角数字のみ。
1：あり、2：なし、0：不明
- 項目 No.24【縫合不全】（【SSI】が[1]の場合のみ任意で設定）
SSIが発生していた場合、縫合不全の有無を下記の値で設定します。半角数字のみ。
1：あり、2：なし、0：不明

- 項目 No.25 【遺残膿瘍】 (【SSI】が[1]の場合のみ任意で設定)

SSIが発生していた場合、遺残膿瘍の有無を下記の値で設定します。半角数字のみ。

1 : あり、2 : なし、0 : 不明

5 提出データの修正

提出後のデータに入力値間違いや変更がある場合は、提出ファイルを修正し再提出します。

提出ファイルのデータ修正は、修正する項目により以下の2つの方法があります。

提出ファイルの各レコードには、キーコードと呼ばれるそれぞれのレコードを識別するために必須の項目があります。

SSI 部門のキーコードは、患者 ID・手術年月日、手術手技コードの3つです。

1. キーコード以外の項目を修正する場合

項目値を修正し、Web 送信することで上書き修正されます。

2. キーコードを修正する場合または一部の患者を削除する場合

上書き修正ができません。事務局で該当期間（半期ごと）のデータを削除した後に、修正後の報告ファイルを Web 送信することで修正されます。

JANIS 事務局に該当期（半期ごと）を明記してデータ削除を依頼してください。

JANIS 事務局

お問い合わせフォーム：<https://janis.mhlw.go.jp/contact/index.html>

6 最後に

「JANIS 手術部位感染(SSI)部門 提出データの概要と作成の手引き」は以上です。

入力支援ソフトやマニュアルは、JANIS 参加医療機関専用サイトの「ソフト/マスタ/資料等」よりダウンロードできます。

また、作成した報告ファイルを、[JANIS データ送信試験サイト](#)にてテスト送信を行うこともできます。

詳しくは、JANIS 事務局までお問い合わせ下さい。

JANIS 事務局

お問い合わせフォーム：<https://janis.mhlw.go.jp/contact/index.html>